

えんネット

Support Magazine 2017 No.04

Special Discussion

島根の多彩な医師の働き方
キャリアを支援します！

隠岐で活躍する女性医師達



発行元

島根大学医学部地域医療支援学講座

島根県・しまね地域医療支援センターから財政支援を受けています。

男女共同参画講義

医学生のうちから、男女ともに社会、家庭に参画する意識を育てることと、キャリアについて考える目的で平成26年度から臨床実習入門として男女共同参画講義を行っています。

平成29年度も秋田大学総合地域医療推進学講座 准教授 蓮沼 直子先生をお招きし、医学部4年生を対象に講義を行いました。

グループワークでは、ディスカッションを通して、多様性を学び、キャリアモデルの紹介では、先生方が、現在までライフイベントを経験しながら、どのようにキャリアを積んできたかお話を伺いました。

キャリアを大切に働き続けるために「えんネット」の取り組みや支援内容について周知しました。

最後に、島根大学、島根県、島根県医師会の取り組みについて講演をいただき、1日を通して、近い将来の自らの働く姿や家庭人としての姿と向き合う機会となったのではないのでしょうか。

ワークライフ・バランス・ランチョンセミナー

スウェーデンのワークライフ・バランス事情や家庭医療について、スウェーデンルンド大学 家庭医学 教授 Margareta Troeinを囲んでランチョンセミナーを行いました。



女性医師と医学部学生のイブニング交流会(えんネット交流会)や Career Café for Doctors(キャリアカフェ) 開催しています！

女性医師の働き方、女性医師同士の横のつながりについて考える機会となりました。



えんネット HP 更新しました！

キャリア支援 両立支援

- 相談窓口
- 就労環境改善の取り組み
- 託児付きセミナー等



育児・介護支援 情報提供

- 県内病院就労支援
- 県内自治体保育支援
- 支援情報へのリンク



学生教育

- キャリアモデル実習
- キャリア教育
- ランチョンセミナー



HPの更新 随時

<http://www.en-net.jp/>

連携 団体

- しまね地域医療支援センター
- 島根県 赤ひげバンク
- 島根県医師会
- 島根大学 男女共同参画推進室
- 島根大学医学部附属病院
- ワークライフバランス支援室

えんネット

ワークライフバランス推進事業

発行/島根大学医学部地域医療支援学講座

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

Tel : 0853-20-2558 E-mail : en-net@med.shimane-u.ac.jp



2018年3月発行



Special Discussion

隠岐の医療を診る ここは医師として成長できる場所。



佐野：本日はお忙しい中お集まりいただきまして、有難うございます。
今回は、隠岐の医療にご尽力をされている女性医師の先生方にお集まり頂きました。
隠岐での診療で印象的なことを教えてくださいますか？



杉村：私は初期研修二年目ですが、大学の先輩に隠岐島前病院での研修を勧められてきました。来てまず驚いたのは看護師さんの幅広い対応力です。勉強熱心でオールラウンドな仕事ぶりを見習いたいと思ってます。スタッフの皆さんが、患者さんをフルネームで呼んでおられて、患者さん一人一人の背景を理解してはじめて、信頼関係ができ上がってくるのを目の当たりにしました。患者さんが安心していただける。なかなか大きな病院では、出来ない経験です。
迫：私も看護師さんの高いスキルに助けられたことがあります。隠岐病院の救急外来に、手指が腫れた患者さんが



来院され、看護師さんから「毒魚」に刺されていると教えてもらい、すばくに対応が出来ました。
佐野：迫先生は今回隠岐病院から駆けつけていただきました。隠岐諸島で隣の島でも船で1時間半かかるんですね。
迫：はい。私も夫も自治医科大学出身で、夫は島根県外の出身なのですが、隠岐病院と一緒に勤務できるよう配慮して頂きました。夫のほつが、島根県出身の私以上に隠岐になじんでいるようにみえます。現在、隠岐病院には、私以外に女性医師が一名おられ、何でもいろいろと相談できることが大変力強いです。
佐野：他の勤務地を経験されてきて、

隠岐島前病院

福田 瑤子 先生

ふくだ ようこ
神経内科専門医 島根県出身。

西ノ島町国民健康保険浦郷診療所所長
隠岐島前病院 外科

白石 裕子 先生

しらいし ゆうこ
隠岐島前病院の院長でもある白石吉彦先生と地域医療を担い続けてきた。総合診療医として内科、外科、小児科と幅広く活躍する一方で4人の子供の母として家庭を支える。



「ここでの医療について特に感じることは何でしょうか。」

福田：患者さんとの距離が近く、患者さんの背景をスタッフがよく知っています。仕事以外でもお互いの声かけがあつて、良い意味で公私混同です。

また、本土の病院では専門科に紹介する場面でも、すぐに紹介することができないケースもあるので、スタッフみんながここで対応できることを増やそ



だろうが何だろうが、患者さんのためなら、気が付いたことは、お互いどんどん指摘し合います。時にはかなり厳しい指摘も。

佐野：本日は、初期研修医、産前、子育て中、ペーパードクターとびっくりするほどさまざまなライフステージの先生にお集まりいただけました。

加藤：現在、保育園の子供と隠岐島前病院内科医の夫と暮らしています。子供を授かって、育休明けはじめての勤務が隠岐島前病院だったので、復帰に向けては大きな不安がありました。

うという努力をしています。

杉村：そうです。指導頂いてる先生方の手技の幅がとても広いです。

佐野：整形外科、消化器内科、感染症などは、地域でのニーズが高いと報告されているものもありますが、そういった点は如何でしょうか。

福田：ここでは整形外科の常勤医不在の中、頻度の多い腰痛や神経痛などの症状に対応するため、「整形外科」という診療が行われています。この診療を始めたのは白石院長以外の医師も手技を習得しています。これはここでの医療ニーズに応じて、診療の内容が進歩した一つの例だと思います。もちろん骨折などで専門的な治療が必要と考えられる際は他院へ紹介することもあります。

福田：私は元々神経内科ですが、ここへ来てからは消化管内視鏡検査や全身のエコー検査など今までの勤め先で

た。本当に勤務できるのかなど。

子育ても医療もされている白石裕子先生の存在は大きくて、見習って、現在がんばっています。

島には保育園が二つあり、院内には病児保育室が完備されています。自分の親とは遠距離のため、活用しています。ここでは仕事と子育てどちらも充実しています。急がないですが、今後、内科サブスペシャリティーを取得したいと思っています。

佐野：白石裕子先生は、女性医師支援が趣味とお伺いしましたが。

白石：はい。女性医師に限らずワークライフバランスを考える活動としてプライマリケア学会で「究極の女子会」を三年間行ってきました。自治医大のワークライフバランスを考える委員会もなっています。会には育メンドクター、育ボスの管理者の方なども参加

はやっていなかったことも行っています。ここでは卒後何年も経った後でも、領域を超えて新たなことを学ぶ機会がありますよ。

佐野：隠岐島前病院は実践を大切にされていますね。

加藤：個人個人の実践はもちろんですが、ここでは本当の意味での多職種連携が行われています。医師・薬剤師・検査技師・事務員が自発的にお互いの業務をカバーしています。相手が、医師



してくださっています。

隠岐に来て二十年、私自身の子育てには住民や先輩スタッフの方々に随分お世話になりました。五人ほどの親切な地元のご夫婦に、病児保育を都度お願いしていました。そのほかにも小学校の子供たちのお世話してもらいました。先日は新年会の間にも、医師を継

続して続けられたのは、地域の力が大きかったですね。いろんな学びがありました。両立のためには、人に任せられることは家事でも育児でも、アウトソーシングできる力が必要ではないかと。いわゆる受援力ですね。

佐野：これからの女性医師支援についてのお考えは。
白石：女性医師同士が支えあえるようなお手伝いができたらと思います。お互いの悩みや大変さを話すだけでも発散できるし、パワーアップできるよう



ファシリテーター
島根大学医学部 地域医療支援学
佐野千晶

さの ちあき

「えんネット」相談窓口担当をしています。ワークライフ・バランスに関する調査研究、復職支援、女性医師支援等を行っています。島根医科大学卒



初期研修医

杉村留実子 先生

すぎむら るみこ

隠岐島前病院 地域医療研修
仕事に加えて、島の生活も満喫中



隠岐病院

迫友紀子 先生

さこ ゆきこ

自治医科大学卒 島根県出身。



隠岐島前病院

加藤志帆 先生

かとう しほ

島根大学医学部卒。
仕事と娘との時間を大切にしている。

えんネットについて



しまね地域医療支援センターの委託をうけ、平成26年度より、島根大学医学部地域医療支援学講座内に両立支援のための相談窓口 **えんネット** が設立されました。

出産、育児、介護などのライフイベントなどで働き方に悩みを抱えている方々がキャリアを継続できるよう支援いたします。

また、「働き続けたい」という意識を育てるために、学生時代からのキャリア教育や、すべての医師の働きやすい職場を目指した、就労環境支援、託児等に考慮した両立支援等を行っていきます。

相談窓口

えんネットでは、現在の働き方に悩みを抱える方のための相談窓口を設置しております。個々に応じた復職への相談も受け付けております。専門科に応じた対応が必要な場合は、支援担当員としてご協力いただく、専門科の先生に相談を受けることも可能です。また、復職相談については学内外と連携をとりながら、段階的な支援を行っています。加えて、女子学生の女性特有の相談に対しても、女性スタッフが対応しています。どんなことでもお気軽に相談ください。

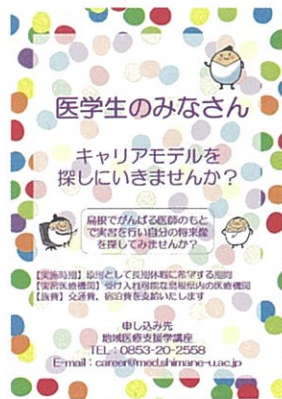
セミナー等に託児をつけます

子育て中の医師も学びやすいよう、セミナー等に託児をつける支援を行っています。また、島根大学医学部附属病院クリニカルスキルアップセンターにてシュミレーショントレーニングの託児付受講もできます。



医師密着型実習 ～キャリアモデルを探しにいきませんか？～

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師のもとで実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習です。実習では、医師の一日の始まりから終わりまで密着し、仕事以外の保育園の送迎や家事などの生活場面についても見学させていただきます。参加した学生さんからは「先生の結婚・出産の頃のお話も伺い、やりたいことをあきらめずにされている強さに自分も勇気ができました。」といった意見が聞かれました。



な気がしますね(笑)。若い先生方や学生の中には、専門医取得や、出産・育児と仕事の両立といった自分の近未来に、戦々恐々としていらっしゃる方も。気持ち分かりますが、焦らないで楽しんで伝えたいです。みんなちがって、みんないいですからね。



白石：毎年、多くの若手医師や学生さんが研修に來ています。詳しくは病院のホームページやフェイスブックをご覧ください。

佐野：今年はドラマ「コウノドリ」で、隠岐島前病院が話題になりました。学生の地域医療実習では、貴院はもともと人気が高いですが、更に盛り上がりそうです。

白石：女性は医師だけでなく、多様な働き方の相談にのるようになってきました。個々の背景や医師としての力量にもよりますが、子育てをして、かつ仕事をすることが出来ます。また、外来のみや健診のみと限定しない働き方も可能です。

加藤：私は、時には子供をつれて、カンファレンスに参加させてもらっています。参加したいですから。

佐野：ライフイベントを考えると相談にのってもらえるのは、有難いことですね。ありがとうございます。

佐野：今年はドラマ「コウノドリ」で、隠岐島前病院が話題になりました。学生の地域医療実習では、貴院はもともと人気が高いですが、更に盛り上がりそうです。

白石：離島での医療は厳しい側面ももちろんありますが、美しい自然に囲まれて、患者さんから感謝されている実感が伝わってくるというやりがいがあると思います。

佐野：島根県の医師が元氣よく働くための、ヒントを頂きました。今日は、ありがとうございました！

白石：離島での医療は厳しい側面ももちろんありますが、美しい自然に囲まれて、患者さんから感謝されている実感が伝わってくるというやりがいがあると思います。

佐野：島根県の医師が元氣よく働くための、ヒントを頂きました。今日は、ありがとうございました！

白石：離島での医療は厳しい側面ももちろんありますが、美しい自然に囲まれて、患者さんから感謝されている実感が伝わってくるというやりがいがあると思います。

佐野：島根県の医師が元氣よく働くための、ヒントを頂きました。今日は、ありがとうございました！

白石：離島での医療は厳しい側面ももちろんありますが、美しい自然に囲まれて、患者さんから感謝されている実感が伝わってくるというやりがいがあると思います。

